

耳鼻いんこう科

一般目標（G I O）

臨床医として求められる基本的臨床能力を身につけるために、耳鼻咽喉科疾患に対する知識と検査および診療手技を理解し、患者やその家族および医療スタッフから情報収集をして治療計画を立て、その一部を実践する。

行動目標（S B O）

- 耳鼻咽喉科領域の解剖・生理を理解する。
 - ① 部位を解剖学用語および一般用語で表現できる。
 - ② 構造と機能を説明できる。
- 基本的診察法・検査法を習得する。
 - ① 病歴を聴取し、病歴作成ができる。
 - ② 鼓膜所見、鼻内所見、咽頭所見、眼振所見がとれる。
 - ③ 聴力検査、インピーダンスオージオメトリーが行え、その結果が理解できる。
 - ④ 平衡機能検査が理解できる。
 - ⑤ 嗅覚・味覚検査が理解できる。
 - ⑥ 耳鼻咽喉科領域のレントゲン写真、CT、MRIが読影できる。
- 耳鼻咽喉科基本処置を習得する。
 - ① 耳処置、鼻処置、咽頭処置ができる。
 - ② 状況によって創傷処置またはその助手ができる。
- 耳鼻咽喉科病棟業務、入院患者管理を習得する。
 - ① 急性炎症性疾患、難聴、眩暈症の管理ができる。
 - ② 術後患者の管理ができる。
 - ③ 悪性腫瘍疾患患者の全身管理ができる。
- 耳鼻咽喉科受診患者の診察と治療計画作成およびその一部の実践ができる。
 - ① 急性中耳炎の診察と治療計画作成ができる。
 - ② 急性副鼻腔炎の診察と治療計画作成ができる。
 - ③ 急性扁桃炎の診察と治療計画作成ができる。
 - ④ 状況によって扁桃周囲膿瘍の診察と治療ができる。
 - ⑤ 難聴の診察と治療計画作成ができる。
 - ⑥ 眩暈症の診察と治療計画作成ができる。
- 耳鼻咽喉科手術の助手ができる。

中耳手術、鼻副鼻腔手術、口腔咽頭手術、頭頸部腫瘍手術などの助手ができる。

方略（L S）

- 耳鼻咽喉科入院患者の全身管理を学ぶ。

急性疾患患者管理、術後患者管理、頭頸部悪性腫瘍患者の全身管理。
- 耳鼻咽喉科一般検査法を学ぶ。

聴力検査、インピーダンスオージオメトリー、平衡機能検査、嗅覚・味覚検査など。
- 耳鼻咽喉科外来で行える処置や手術を学ぶ。

耳処置、鼻処置、咽頭処置、創傷処置、鼓膜穿刺術、鼓膜切開術、扁桃周囲膿瘍穿刺排膿術、扁桃周囲膿瘍切開排膿術、副鼻腔洗浄など。
- 耳鼻咽喉科手術の助手を行う。

中耳手術、内視鏡下鼻副鼻腔手術、口蓋扁桃摘出術、頭頸部腫瘍手術の助手など。

評価（Ev）

- 評価は、観察記録とし、研修医および指導医が1か月毎に行う。
- プロフェッショナリズム、資質・能力についてはプログラム全体の評価の該当する項目で評価する。
- 耳鼻いんこう科独自の目標に関しては専用の用紙を用いて評価を行う。

	経験	省察	学び	試行	観察者	解析者	フィードバック
S. B. O. 1	外来・病棟	OMP	自習・OMP	口頭試問	指導医・ 上級医	自己・指導医・ 上級医	指導医・ 上級医
S. B. O. 2	外来・病棟	OMP	OMP・ SEA	診療・ケース スタディー	指導医・ 上級医	自己・指導医・ 上級医	指導医・ 上級医
S. B. O. 3	外来・病棟	OMP	OMP・ SEA	診療	指導医・ 上級医	自己・指導医・ 上級医	指導医・ 上級医
S. B. O. 4	病棟	OMP・多職 種カンファ	OMP・SEA 多職種カンファ	診療・ケース スタディー	指導医・上級 医・多職種	自己・指導医・上 級医・多職種	指導医・ 上級医
S. B. O. 5	外来・救急	OMP	OMP・ SEA	診療	指導医・ 上級医	自己・指導医・ 上級医	指導医・ 上級医
S. B. O. 6	手術室	OMP	OMP・ SEA	診療	指導医・ 上級医	自己・指導医・ 上級医	指導医・ 上級医

スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30~8:45	ミニカンファ	ミニカンファ	ミニカンファ	ミニカンファ	ミニカンファ
8:45~ 外来終了	病棟回診およ び外来診療	病棟回診およ び外来診療	病棟回診およ び外来診療	病棟回診およ び外来診療	病棟回診およ び外来診療
午後手術 または検査 開始~終了	検査参加	手術参加	検査参加	手術参加	手術参加
終了~17:15	他職種 カンファ	復習	ケース スタディ	復習	勉強会